

光照山普門寺・下馬落観音堂の棟札

*松本美虹

はじめに

茅ヶ崎市芹沢にある光照山普門寺の下馬落観音堂は、昭和33年(1958)に建築され、講中が集う場所として活用される他、公民館としての機能も持ち合わせていた。しかし老朽化などの理由により、平成28年9月に解体された。解体に伴い、観音堂内部に保存されていた棟札(むなふだ)、講中記録、本尊などの資料は観音堂近くにある来迎寺(らいこうじ)に移された。今回はこれらの資料のうち、棟札のみを考察する。「下馬落観音堂」という名称は、馬に乗った武将が観音堂前を通りかけた際、落馬したために名づけられたと言われている。

1 調査内容

観音堂解体に伴う棟札等の移動に際し、棟札等の調査をさせていただく運びとなった。調査の詳細については、左記のとおり。

- (1) 調査日時 平成28年8月26日～27日
- (2) 調査場所 光照山普門寺・下馬落観音堂(茅ヶ崎市芹沢)
- (3) 調査資料 棟札、講中記録、本尊など
- (4) 調査方法 資料の計測(基本的に縦・横・高さだが、本尊は細かな箇所を計測)、撮影。
- (5) 参加者 ①茅ヶ崎市教育委員会社会教育課職員

2 茅ヶ崎市内の棟札

②文化資料館と活動する会(民俗行事部会) 会員
有村幸三、小川正恭、加藤幹雄、金子栄司、
坂井源一、平野文明、平松和弘(敬称略)

棟札とは、寺社、民家などの建物を新築、修繕などする際に、施工の年月日、工事記録願主などを木札に記録したものである。これにより、いっどこで、どのような出来事があったのかを把握できる。

棟札は何百年にも渡り残されてきたが、比較的新しい研究分野だと言われている。

茅ヶ崎市では、以前より棟札についての調査が実施されてきた。赤羽根神明大神所蔵の棟札は、寛文2年(1662)～昭和30年(1955)。円蔵・神明大神所蔵の棟札は、天和元年(1681)～平成8年(1996)。萩園日枝神社所蔵の棟札は、元和7年(1621)～昭和3年(1960)。こちらは年代不明資料あり。

本論では観音堂の棟札より、観音堂に関する歴史について読み解いていく。そして、茅ヶ崎の棟札に関する研究の一助になれば幸いである。

3 光照山普門寺

光照山普門寺は、通称として下馬落観音と呼ばれていた。

建立時期は不明だが、天文9年(1540)に兵火によって焼失している。その後、本尊は清水谷に仮安置され、元和3年(1617)に元の寺地に再建された(資料2参照)。

再建後、門前を馬に乗って通る武将が皆、落馬したと伝えられている。霊仏のため「下馬落観音菩薩」と呼ばれ、33日間開帳後、33年目に一

度、開帳することとした。元和3年の34年後である慶安4年(1651)より257年間、33年に一度の開帳が実施された。

4 棟札制作当時の出来事

観音堂に保存されていた棟札は全部で21点であった。ここから分かる出来事について、各出来事に分けて解説する。各年代の詳細については、表1を参照いただきたい。

(1) 本尊開帳(三十三年目)

開帳とは、特定日に厨子の扉を開き、普段は見せない内部の秘仏を一般の方に拝んでいただくこと。観音堂の場合は先述のとおり、本尊を33年に一度開帳されていた。

本尊開帳に関する棟札の年代は慶安4年(1651)〜平成18年(2006)までの355年間で、12点であった。

慶安4年(1651)、天和3年(1683)、正徳5年(1715)、延享4年(1747)、安永8年(1779)、文化8年(1811)、天保14年(1843)、明治8年(1875)、明治40年(1907)と、33年に一度のペースで本尊開帳が実施されている。

通常であれば次の本尊開帳は昭和14年(1939)に実施されるはずだが、次は昭和19年(1944)であり、5年遅れの開帳であった。明治40年から昭和19年の期間は、大正12年(1923)の関東大震災、第二次世界大戦と、茅ヶ崎では様々な出来事があった。後述するが、大正12年の関東大震災により、観音堂と本尊は被害に遭っており、昭和4年(1929)に修繕されている。これらの理由により、本尊開帳を通常通り実施するのは困難であった可能性がある。

次の本尊開帳は29年後の昭和48年(1973)であり、その後は17年後の平成2年(1990)、そして16年後の平成18年(2006)と、不定期な開帳が続いている。

なお、今回の観音堂解体に伴い、平成28年(2016)8月に観音堂での最後の本尊開帳が実施された。平成18年から数えると10年振りの開帳となる。

残された棟札により、近世より平成年代まで本尊開帳が定期的に行われており、現代まで講中が持続されてきたことが分かる。

(2) 御前立修繕、鎮座供養

本尊開帳時以外、本尊は厨子に収められており、人目に触れる機会はない。本尊前には御前立が鎮座しており、講の集まりでは御前立が拝まれている。

棟札は、昭和30年(1955)の1点のみである。

(3) 草堂再興・堂宇修造・再建

「草堂再興」「堂宇修造」「再建」と明記された棟札。表記は異なるが、観音堂を修繕、再建した際に制作された棟札だと考えられる。

「草堂」とは、草葺き屋根の意味。「堂宇」は堂の軒という意味。他に神仏、祖先などを祀る建物である「殿堂」という意味もある。

棟札は、元和3年(1617)〜昭和4年(1929)の313年間で、6点。

名称は異なるが、観音堂を建て直したという意味では、後述する「新築落成および公民館兼用開始記念」も同類の棟札である。

(4) 新築落成および公民館兼用開始記念

昭和33年(1958)の1点のみで、平成28年9月に取り壊された観音堂の建築当時の棟札である。先述した観音堂再建の内容に加え、観音堂が腐朽のため地元有志により新築され、名称を観音堂兼公民館とした旨が明記されている。

5 役割

本尊開帳など、観音堂に関する出来事について記録された棟札には、導師などの各役割が明記されている。役割と共に、担当者について紹介する。

(1) 導師

導師とは、法会時を中心となって進行する僧である。葬儀時に主となり、引導する場合もある。本尊開帳、草堂再興、新築落成および公民館兼用開始記念などの棟札にて明記されているので、これらを実施した際に導師がいたと思われる。

同一人物だと思われる「芹沢山単誉上人」という僧を慶安4年(1651)の本尊開帳、明暦1年(1655)の堂宇修造、寛文6年(1666)の堂宇再建の棟札に確認できる。

明治23年(1890)の堂宇再建、明治40年(1907)の本尊開帳では、芹沢山来迎寺の関係者が導師を務めている。

(2) 庵主

庵室の主、又は尼僧の呼び名。

二代目庵主「音誉檀の大徳」が元和3年(1617)の草堂再興、慶安4年(1651)の本尊開帳、明暦1年(1655)の堂宇修造の棟札にて確認できる。

普門寺の歴代庵主については、下記のとおり。一代目は道善禪定門、二代目は音誉檀の大徳、三代目は忍蓮社法誉玄的和尚、四代目は準誉碩故比丘、五代目は專誉一心比丘、六代目は專誉称入比丘、七代目は生誉善入比丘、八代目は宝誉学入海阿比丘、九代目は欣誉念求比丘、十代目は征誉念求比丘、十一代目は仙妙沙称、十二代目は法順禪定尼、十三代目は戒光大道上座である。

(3) 願主

寺社などの建立時に祈願する、経典を読む、供養の依頼を行う人。寛文6年(1666)の堂宇再建では、大願主として「音誉檀の大徳」の名前がある。

また天和3年(1683)の本尊開帳、元禄7年(1694)の堂宇修造、正徳5年(1715)の本尊開帳には、比丘の名前がある。比丘は比丘尼とも呼び、尼僧という意味。他には出家し、定められた戒を受けた男子という意味もある。比丘のうち「順誉願故比丘」「專誉一心比丘」という2名の名前が天和3年、元禄7年に出てくる。

(4) 現住

当時の住職だと思われる。安永8年(1779)の本尊開帳のみで、「願誉順故比丘」が務めている。

また、現住とは異なるが「現主」「住僧」という役職も確認できた。文化8年(1811)の本尊開帳に現主として「浄円比丘」の名前が、天保14年(1843)の本尊開帳に住僧として「仙妙沙彌」の名前がある。現主は、現住と同じ比丘である。

(5) 地頭

江戸時代は、知行所を持つ領主の意味。各藩の地行地にて、租税を徴収する権利を持った家臣など。また、代官を指す場合もある。

「小沢彦太夫」という人物が明暦1年(1655)の堂宇修造、寛文6年(1666)の堂宇再建に登場する。一方は「彦大夫」なので一字異なるが、おそらく同一人物だと思われる。また「戸田三右衛門」は寛文6年(1666)の堂宇再建、元禄7年(1694)の堂宇修造に、「小沢治良太夫」は元禄7年(1694)の堂宇修造、正徳5年(1715)、延亨4年(1747)の本尊開帳に、「戸田金平」は正徳5年(1715)、延亨4年(1747)の本尊開帳に、「小沢牛右エ門(牛右衛門)」は安永8年(1779)、文化8年(1811)、天保14年(1843)の本尊開帳に、それぞれ確認できる。

(6) 名主

江戸時代、郡代・代官の支配下で村政を担当した役人。

「兵左エ門」「善左エ門」の2名が元禄7年(1694)の堂宇修造、正徳5年(1715)の本尊開帳、延亨4年(1747)の本尊開帳にある。2名が同一人物であった場合、少なくとも54年間は務めたことになる。「甚兵衛」「権兵衛」の2名が元禄7年(1694)の堂宇修造、正徳5年(1715)の本尊開帳にある。こちらも2名は2年間務めたと考えられる。

おわりに

今回調査させていただいた棟札は破損等がなく、年代、役職名、出来

事などを読み取りやすかった。役職を確認した際、同一人物だと思われる名前を確認でき、当時の様子を把握できた。今後、新たに棟札、古文書などが見つかり、今回の棟札に明記された人物名があれば、茅ヶ崎の歴史に加えられる。

最後となったが、今回調査をさせていただいた氏子の皆様、調査にご協力いただいた文化資料館と活動する会(民俗行事部会)の皆様、棟札写真を撮影提供いただいた坂井源一氏には感謝申し上げます。

参考文献

- ・ 光照山普門寺 1990 『下馬落観音』
- ・ 川城三千雄 2003 「赤羽根神明大神所蔵の棟札」『文化資料館調査研究報告』11 茅ヶ崎市教育委員会
- ・ 伊藤稚都 2007 「円蔵・神明大神の棟札について」『文化資料館調査研究報告』15 茅ヶ崎市教育委員会
- ・ 平野文明 2010 「萩園日枝神社所蔵の文化財」『文化資料館調査研究報告』19 茅ヶ崎市教育委員会
- ・ 藤木竜也 2013 「鳥取県米子市東八幡 八幡神社棟札に見る形態・内容と中世伯耆・出雲の「八社八幡宮」」『日本建築学会技術報告集』第19集 第43号 日本建築学会

* 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課(茅ヶ崎市文化資料館)

下馬落観音堂 棟札資料目録

※計測値の単位はmm。最長の縦と横を記録。

資料番号	年代	出来事	導師	庵主	願主	現住	地頭	名主	計測値
1	元和3年(1617)	草堂再興	芹沢山来迎寺正誉上人	音誉檀の大徳					415×103
2	慶安4年(1651)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山単誉上人	音誉檀の大徳					417×103
3	明暦1年(1655)	堂宇修造	芹沢山単誉上人	音誉檀の大徳	矢野折部 石川十左衛門 石川興次兵衛		戸田久助 小沢彦太夫		416×103
4	寛文6年(1666)	堂宇再建	芹沢山単誉上人		音誉檀の大徳 (大願主)		戸田三右衛門 小沢彦大夫		417×103
5	天和3年(1683)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山来迎寺		順誉願故比丘 専誉一心比丘				416×102
6	元禄7年(1694)	堂宇修造	芹沢山清誉上人		順誉願故比丘 専誉一心比丘		戸田三右工門 小沢治良太夫	兵左工門 善左工門 甚兵衛 権兵衛	418×105
7	正徳5年(1715)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山覚誉上人		生誉善入比丘		戸田金平 小沢治良太夫	兵左工門 善左工門 甚兵衛 権兵衛	418×103
8	延亨4年(1747)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山常誉上人				戸田金平 小沢治良太夫	兵左工門 善左工門 治良兵工 金兵衛	418×106
9	安永8年(1779)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山聲蓮社名誉祐門苾芻			願誉順故比丘	戸田左京 小沢牛右工門	矢野重右工門 川口弥 右工門 塩川彦兵衛 川口善左工門 鎮野長 右工門 矢野源兵衛 市川惣左衛門 平本六 兵衛 石井小兵衛 米 山五兵衛 市川市良右 工門 齋藤惣右工門	417×103
10	文化8年(1811)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山法蓮社沢弘阿上人 仙應和尚				戸田六蔵 小沢牛右工門	柏木興治右工門 川口 喜右工門 石井理左工 門 米山五兵衛	386×100
11	天保14年(1843)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山十七世照蓮社寂誉上人 光阿美源和尚			(住僧)仙妙沙彌	戸田市左衛門 小沢牛右衛門	田代茂兵衛 石井左太郎	394×91
12	明治8年(1875)	本尊開帳(三十三年目)	空蓮社辨誉上人 権訓導宮川貫察薫香						391×100
13	明治23年(1890)	堂宇再建	芹沢山来迎寺代理門沢橋浄久寺 住職宇和島靈察						415×101
14	明治40年(1907)	本尊開帳(三十三年目)	芹沢山来迎寺 大蓮社長誉大準						395×156
15	昭和4年(1929)	堂宇・本尊被災修理							383×110
16	昭和19年(1944)	本尊開帳(三十三年目)							389×109
17	昭和30年(1955)	御前立修繕・鎮座供養							378×115
18	昭和33年(1958)	新築落成および 公民館兼用開始記念	道誉勇準						383×205
19	昭和48年(1973)	本尊開帳(三十三年目)	徳蓮社道誉						407×76
20	平成2年(1990)	本尊開帳(第十三回)							336×76
21	平成18年(2006)	本尊開帳(中開帳)							338×77

導師芹沢山單譽上人
庵主音譽檀の大徳

資料 2 (裏)

種子(サ)
大日本相州高座郡大庭莊芹沢村光照山普門寺本尊ハ安阿彌之正作ニ而古ヨリ
當村ニ安置之所天文九年兵火ニ而焼失ス本尊ハ清水谷ニ安置也然ルニ元和三巳年今之
寺地江再建成就畢又乍併靈佛故世人芹沢村下馬落之觀音菩薩ト申傳依之
卅三日開帳之後扉佛ニシテ卅三年目ニ令開帳者也
慶安四卯年七月十五日

資料 2 (表)

大檀那山上郷衛門殿内柏木内蔵助本願敬白
新左工門 四良左工門
市右工門 六良右工門
藤左工門
善左工門 助右工門
弥右工門 五良兵工
主 水

資料 1 (裏)

種子(サ)
光照山普門寺再興棟札
南閣浮提第日本相州大坂之郡大庭之庄芹沢之郷草堂一字再度大小之壇越
求願成就亦一言半句助誠一紙半錢施力七分全得成種珠者御内富貴現世
安穩後生善所祈者也為道喜禪定門第卅三廻忌佛果菩提也
于時元和三丁巳年 導師芹沢山來迎寺正譽上人
八月彼岸 庵主音譽檀の大徳

資料 1 (表)

地頭
戸田三右衛門殿
小沢彦大夫殿
武運長久
郷内富貴

資料 4 (裏)

種子(サ)
普門品曰雲雷鼓掣電降雹澍大雨念彼觀音力應時得消散云云相劬高座郡大庭莊
芹沢村光照山普門寺明暦元年修理之佛閣大風ニ而吹破依之近郷隣村千日之日參ニ而斬々再
建成就又此重力不空施入面々未來一蓮訖生祈者也
導師芹沢山單譽上人
寛文六丙午年四月十八日
大願主 音譽檀の大徳

資料 4 (表)

地頭
戸田久助殿
小沢彦大夫殿
願主
矢野折部
石川十左衛門
石川興次兵衛

資料 3 (裏)

種子(サ)
觀音經白具一切功德慈眼視衆生福聚海無量是故應頂禮云々
相州高座郡芹沢村光照山普門寺元和三年建立之所至而小堂二
候間再發願而大小之壇越ヲ勤メ修造成就畢又乃至法界平等利益
明暦元乙未年十月十八日 導師芹沢山單譽上人
庵主音譽檀の大徳

資料 3 (表)

地頭
戸田三右工門殿
小沢治良太夫殿

名主
兵左工門
善左工門
甚兵衛
権兵衛

資料6 (裏)

種子(サ)

普門品曰妙音觀世音梵音海潮音勝彼世間音是故須常念矣
相州高座郡芹沢村光照山普門寺大悲閣及大破依之郷内自他檀越
以施力修造成就希依此功德施主面々現當兩益祈者也
維時元禄七甲戌年十二月十八日 入佛供養導師芹沢山清譽上人
願主 順譽願故比丘
專譽一心比丘

資料6 (表)

書置を見るもの阿らはたのもしく
おもひ出して我をとむらひ
来迎寺七世信連社単誉行年八十一才

資料5 (裏)

種子(サ)

天和三亥年
奉開帳本尊觀世音菩薩
九月十八日

導師芹沢山来迎寺
諸願成就
萬難消滅
願主 順譽願故比丘
專譽一心比丘

資料5 (表)

正徳五未年ヨリ卅三年目也

地頭
戸田金平殿
小沢治良太夫殿

名主
兵左工門
善左工門
治良兵工
金兵衛

資料8 (裏)

種子(サ)

延享四卯年
奉開帳本尊觀世音菩薩
二月十五日

導師芹沢山常譽上人
郷内富貴
檀越繁栄
祈処
光照山普門寺欣譽念求代

資料8 (表)

天和三亥年ヨリ卅三年目也
光照山普門寺開帳札

地頭
戸田金平殿
小沢治良太夫殿

願主 生譽善入比丘

名主
兵左工門
善左工門
甚兵衛
権兵衛

資料7 (裏)

種子(サ)

正徳五未年
奉開帳本尊觀世音菩薩
七月十五日

導師芹沢山覺譽上人
村中繁昌
二世安樂
也

資料7 (表)

安永八亥年ヨリ三十三年目ナリ

御地頭 戸田六藏殿
小沢牛右工門殿

同 名主 柏木興治右工門
川口喜右工門
石井理左工門
米山五兵衛

七八人 矢野次良兵工
三堀四良左工門
三谷
栴谷 若者中

資料 10 (裏)

種子(サ)

奉開扉本尊觀世音菩薩

文化八辛未年潤二月十四日ヨリ至日十八日

昼夜說法

光照山普門寺現主 淨円比丘

導師芹沢山法蓮社沢弘阿上人仙應和尚

資料 10 (表)

延享四卯年ヨリ卅三年目也

地頭 戸田左京殿
小沢牛右工門殿

村役人 川口善左工門
鎮野長右工門
矢野源兵衛

名主 矢野重右工門
市川惣左衛門
平本六兵衛
石井小兵衛
米山五兵衛
市川市良右工門
齋藤惣右工門

資料 9 (裏)

種子(サ)

奉開帳本尊觀世音菩薩

安永八巳亥年

二月彼岸中

導師芹沢山聲蓮社名譽祐門苾芻

惡魔降伏怨敵退散
現世安穩後生善処

光照山普門寺現住願譽順故比

資料 9 (表)

神奈川県令 代議人 安田善兵衛
村用掛 安田善兵衛
中嶋信行殿 副戸長 矢野藤輔
田代茂兵衛

當年番世話人 開帳中世話人
安田徳左衛門 石井作兵衛
三ッ堀四郎左衛門 三ッ堀松兵衛
石川平左衛門 三川重郎兵衛
岡田戸右衛門 矢野甚兵衛

天保十四卯閏九月廿八日ヨリ三拾三年目ニ當リ
明治八亥十一月十六日十七日二夜堂昼説教法要畢

横井 大竹七左衛門
供養塔婆 施主 大工安田八左衛門

資料 12 (裏)

種子(サ)

奉開扉本尊觀世音菩薩

第拾八大区九小区百十二番地
芹沢山二十一主

空蓮社辨譽上人 導師 權訓導宮川貫察薫香

資料 12 (表)

文化八未年ヨリ
三十三年目ニナリ

御地頭 田市左衛門殿
沢牛右衛門殿

同 名主 田代茂兵衛
石井左太郎

柳谷 若者中

堂定世話人 開扉中世話人
左太郎 新右工門
勤左工門 弥平次
善次郎 平右工門
儀兵衛 佐五兵衛

資料 11 (裏)

種子(サ)

奉開扉本尊觀世音菩薩

天保十四癸卯年閏九月廿八日ヨリ晦日迄

昼夜說法

普門寺住僧 仙妙沙彌

導師 芹沢山十七世 照蓮社寂譽上人光阿承源和尚

資料 11 (表)

明治八年ヨリ三十三年目ナリ

年番世話人
安藤茂八
安田条次郎
柏木與吉
大竹熊次郎
市川林蔵

開扉中世話人
大竹七蔵
安田善兵衛
大藤善吉
矢野亥之助
西ヶ谷松五郎
大竹弥吉

常盤嘉吉
常盤義定
大竹齋三郎
回向柱職工
木挽石井熊次郎
大工安田熊治郎
先山安藤藤治郎

資料 14 (裏)

種子(サ)

明治四拾年十月九日ヨリ十一日マデ

奉開扉本尊觀世音菩薩

昼夜法要

導師芹沢山来迎寺
大蓮社長譽大準

光照山普門寺安置

資料 14 (表)

神奈川県知事浅田徳則殿

維時明治廿三年三月廿七日
導師芹沢山来迎寺代理門沢橋浄久寺任職宇和島靈察

西ヶ谷久左衛門
大竹儀兵衛
安田善兵衛
大竹齊三良

世話人
矢野亥之助
安田条治良
大竹弥五左衛門
石川重郎兵衛

本堂木口請負人 三ッ堀四郎左工門
供養塔婆木挽職 石川萬造

資料 13 (裏)

種子(サ)

光照山普門寺再建棟札

南閭浮堤大日本相模国高座郡小出村芹沢大悲閣觀世音宇広町
三千三百三十五番地イ号ニ從來安置ノ所王政復古維新ノ際明
治ノ初年堂宇瓦解ニ付其ノ後當村来迎寺江仮安置セシモ猶亦
明治廿二年九月十二日本地江再建ノ策ヲ起シ大小ノ信徒求願
成就亦一言半句助成一紙半銭施力全得明治廿三年三月廿七日
上棟式執行並入佛供養殊者郷内富貴現世安穩後生善所祈者也

資料 13 (表)

年番世話人
常盤直吉
石川治吉
石井琴治
石川筆吉
安田高蔵

開扉世話人
安田茂太郎
石川平蔵
杉並盛重
石井邦治
常盤直吉

資料 16 (裏)

種子(ア)

昭和十九年十月十日

奉開扉觀世音菩薩

日支事変五ヶ年間引続き
大東亜戦争 快戦の年

芹沢山来迎寺二十二世
徳蓮社道譽勇準

資料 16 (表)

年番世話人
柏木與吉
大竹弥八
石井熊次郎
常盤信吉
岡田良助

開扉世話人
大竹七蔵
大藤善吉
常盤直吉
石井安五郎
安田茂太郎
常盤理助

矢野善太郎
大竹齋三郎
石川一行
三堀藤次
常盤信求
大竹久作

資料 15 (裏)

種子(サ)

小出村芹沢光照山普門寺大正十二年九月一日未曾有ノ関東大震災ニ
於テ堂宇倒潰シ安阿弥御作本尊下馬落觀世音菩薩御身體大
破シ信徒怪議シ浄財ヲ喜捨シ御彩色ヲ施シ堂宇ヲ修理シ工事全
竣成シ本日ヲトシ御開眼式並ニ御開扉ヲ奉修ス

昭和四年十月十日 芹沢山来迎寺廿一世 長譽大準敬白

資料 15 (表)

建築委員

石井邦治 三堀金作
常盤邦夫 石井福寿
大竹三郎
石川洪

世話人

岡田良助 大藤勝
石川治祥 矢野剛
杉並盛重 西ヶ谷久司
安藤政吉 常盤清治
安田精

資料 18 (裏)

茅ヶ崎市合併昭和参拾年十月一日
相洲茅ヶ崎市芹沢光照山普門寺は創立開基共に詳かでないが古老の傳えるところによれば古から同所に安置してあつて下馬落觀世菩薩と申傳へ近郷近在の信仰のとなり靈驗あらたかつたといふことである 今から四百拾七年前天文九子年兵火に遇い焼失したので元和三巳年今の寺地に再建して今日に至つた年を経るにつれ腐朽甚だしく信徒間に復興の聲高く尚堂宇を部落集会所として利用すること頻繁になり狹隘を痛切に感じ信徒一同これが復興について種々協議し結果世話人建築委員始め地元諸氏等が東奔西走し各方面有志の浄財喜捨を得て新築落成した今回名称を觀音堂兼公民館と改め四月吉日を卜し芹沢山來迎寺第二十二世道譽勇準導師のもとに堤浄見寺倉見行安寺兩師隨喜來賓茅ヶ崎市長内田俊一氏小出支所長始め市會議員其他部落全戸多数の参列莊嚴裡に入佛供養の大法要を厳修歡喜報恩の誠を奉じて大慈大悲の御加護を祈願した
昭和参拾参年拾月拾日

資料 18 (表)

世話人

石井邦治
三堀藤次
常盤清治
安田一三三
石川勇雄

資料 17 (裏)

昭和三十年十月廿七日御前立修繕同日鎮座供養

資料 17 (表)

三堀佐明 石井邦男
石川十三次 大藤幸巧
石川茂 大竹春夫

芹沢山來迎寺
二十三世宝譽昇道

資料 21 (裏)

種子(サ)

奉修開扉本尊下馬落聖觀世音菩薩
平成十八年十月十日
中開帳

資料 21 (表)

神奈川県知事長洲一二
茅ヶ崎市長根本康明
芹沢自治会長三堀和友
芹沢山來迎寺廿三世宝譽昇道

當番世話人
石川茂 開帳世話人
大竹春夫 石井忠利
安田高夫 大藤勝
常盤良夫 石井正久
岡田キン 三堀佐明
西谷久夫

資料 20 (裏)

種子(サ)

平成二年十月十日
奉修開扉本尊下馬落大觀世音菩薩
明仁天皇御即位

資料 20 (表)

昭和四十八年十月十日

世話人
大藤勝 西ヶ谷久司
石井幸男 安藤敏政
大竹吉雄
供養塔婆講中

資料 19 (裏)

種子(サ)

芹沢山二十三主
奉開扉本尊下馬落觀世音菩薩
導師徳蓮社道譽
僧都宮川勇準
隨喜小動野々山上人
寺院堤菱科上人

資料 19 (表)

下馬落觀音堂 棟札写真



資料2 (裏)



資料2 (表)



資料1 (裏)



資料1 (表)



資料4 (裏)



資料4 (表)



資料3 (裏)



資料3 (表)



資料6 (裏)



資料6 (表)



資料5 (裏)



資料5 (表)

下馬落観音堂 棟札写真



資料 14 (裏)



資料 14 (表)



資料 13 (裏)



資料 13 (表)



資料 16 (裏)



資料 16 (表)



資料 15 (裏)



資料 15 (表)



資料 17 (裏)

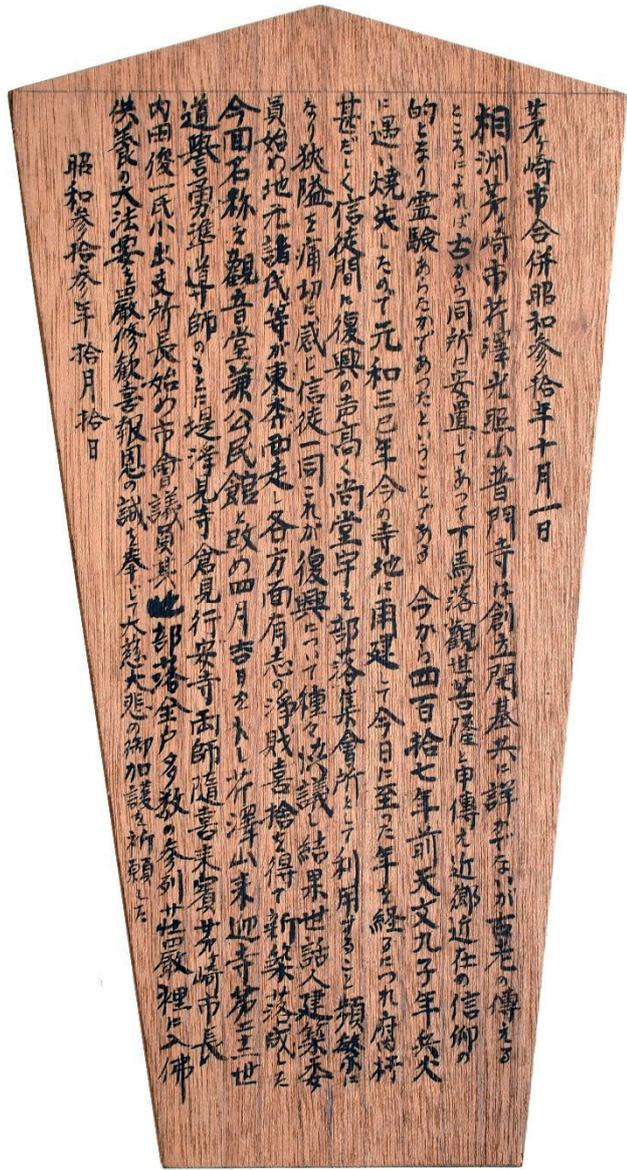


資料 17 (表)

下馬落観音堂 棟札写真



資料 18 (裏)



資料 18 (表)



資料 19 (裏)



資料 19 (表)



資料 21 (裏)



資料 21 (表)



資料 20 (裏)



資料 20 (表)